

第1章



復旧・復興トピックス

平成30年度における国・県・土木部の主な出来事について時系列で記載しています。

国・宮城県・土木部の8年目の歩み

平成30年4月

国・宮城県全体のトピックス

1日：震災復興計画「発展期」がスタート

17日：日本女子プロゴルフ協会から寄付金の贈呈

一般社団法人日本女子プロゴルフ協会（LPGA）の鈴木愛選手が宮城県東京事務所を訪れ、東日本大震災みやぎこども育英募金への寄付金の目録を村井知事に手渡しました。



18日：女川町災害公営住宅整備事業完了

女川町宮ヶ崎地区の完成により、女川町における災害公営住宅（計画戸数859戸）の整備が完了し、その完了式典が開催されました。



22日：羽生結弦選手「2連覇おめでとう」

パレード

平昌（ピョンチャン）冬季オリンピックフィギュアスケート男子シングルで、2大会連続金メダルを獲得した羽生結弦 選手の偉業をたたえるパレードが開催されました。また羽生選手は震災復興のために役立ててほしいと、県と仙台市に寄付金を贈呈しました。沿道には10万を超える方々が、全国各地や海外からも駆け付け、羽生選手の快挙をたたえました。



24日：名取ソーラーウェイ竣工式典

津波で被災した名取市の宮城県農業高等学校跡地に、大規模太陽光発電所「名取ソーラーウェイ」が完成し、竣工式典が開催されました。名取ソーラーウェイは、県内自治体が関係する太陽光発電所としては最大規模であり、津波被災地のビジネスモデルとして、また「創造的な復興」事業の1つとして期待されています。



土木部のトピックス

1日：辞令伝達式を開催

自治法派遣職員に対して、土木部長による辞令伝達を行いました。

15日：「平成30年度ドーロ・クリーン大作戦」

（大島地区） 実施

（一）般県道大島線（気仙沼市大島）の環境美化と不法投棄防止の啓発を目的として『平成30年度ドーロ・クリーン大作戦』を、大島で開催された“気仙沼つばきマラソン”に先立ち、マラソンコースの一部となる一般県道大島線の約7.5kmの区間において実施しました。



18～19日：自治法派遣職員研修 開催

自治法派遣職員を対象として、宮城県の被災状況、復興状況等の現状と、宮城県での実務に関する研修を開催しました。

20日：衛生携帯電話・PHSイエデンワ通信訓練

実施

大規模地震災害時に備えた安否確認訓練の年間実施計画に基づき、各事務所に設置されている衛星携帯電話及びPHSイエデンワの通信訓練を実施しました。



27日：復興道路（一）荒浜港今泉線 開通

東北地方太平洋沖地震の津波により被災した「一般県道荒浜港今泉線」の荒浜港から逢隈地区中心部までのL=4.1kmについて、被災を受けた市街地や各集落を接続する復興道路として平成24年度から整備を進めてきており、工事の完成後は順次、供用開始をしてまいりました。今回、津波浸水対策のため、道路を嵩上げ整備した「鳥の海工区」が完成したことから、通行を開始いたしました。



国・宮城県全体のトピックス

22日：第1回「みやぎの復興現場」訪問事業
(広域石巻圏)

東日本大震災からの復興に前向きに取り組んでいる企業や団体などを村井知事が訪問する「みやぎの復興現場」訪問事業を実施しました。この日は、東部地方振興事務所管内の広域石巻圏(2市1町)において「幸(さち)満(み)つる郷(さと)KDDIエボルバ野蒜」,「湊水産株式会社」,「一般県道石巻女川線浦宿道路改良事業工事現場」を訪問しました。



30日：イオングループ各社からの寄付金目録の贈呈

イオングループ各社から「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」および「社会福祉基金」へ寄付金の目録が贈呈されました。この寄付金は、お客さまから寄せられた募金と、イオングループ各社が実施している「レシートキャンペーン」や「東北復興WAON」の利用金額の一部を寄付いただいたものです。



31日：石巻市防災センター開所式典

石巻市の防災・復興拠点である、石巻市防災センターが完成し、同駐車場において開所式典が行われました。この防災センターは、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害における災害対策本部の体制整備強化を図るため、市庁舎及び防災関係機関と連携し、迅速な防災対策を行う機能を有した防災拠点施設です。



土木部のトピックス

14日：土井復興副大臣が津波漂流物対策事業を視察

土井復興副大臣が、県が仙台塩釜港仙台港区で進めている津波漂流物対策事業を視察しました。仙台港区は、東北の物流拠点として重要な役割を担っていますが、震災時は港湾施設そのものの被害に加え、津波により完成自動車や資材等が臨港道路上に漂流する等して啓開作業に時間を要したため、震災初動期の港湾機能に大きく影響しました。このような二次災害を防止するとともに、背後地への津波被害の軽減、緊急輸送路・避難路等の確保、港湾機能の早期回復を図ること等を目的として整備するもので、平成31年度末の完成を目指し工事を進めています。



17日：平成30年度 防災訓練担当者養成研修実施

自然災害に備えて、正しい防災知識を持ち、各職場における配備及び訓練の計画を立案もしくは補助し、職場における防災担当者となる職員の育成を目的として、土木部の技術職員を対象に防災研修(旧：土木部防災リーダー養成講座)を実施しました。



22日：村井知事が復興現場の視察を実施

村井知事が「みやぎの復興現場」訪問事業の一環として、(一)石巻女川線、浦宿道路改良事業(牡鹿群女川町浦宿浜地内)の現場視察を行いました。浦宿道路改良事業は、女川浦宿浜地内における狭隘・線形不良による交通障害を解消するとともに、防災道路ネットワークの構築を目的とした事業で、現在は(仮称)浦宿橋の下部工事が行われています。



国・宮城県全体のトピックス

4日：スターダスト☆レビューからの寄付金目録の贈呈

人気バンド「スターダスト☆レビュー」のボーカル根本要さんが宮城県東京事務所を訪れ、「東日本大震災みやぎこども育英募金」へ寄付金の目録を贈呈しました。スターダスト☆レビューは震災後、被災地でのライブ活動や会場に募金箱を設置するなど復興支援活動を継続的に行っています。ライブでの収益金の一部やファンの方々から寄せられた義援金を寄付いただいたものです。



12日：株式会社ヤヨイサンフーズとの立地協定

宮城県および気仙沼市は、株式会社ヤヨイサンフーズの新工場に関する立地協定を締結しました。新工場は東日本大震災で被災した旧気仙沼工場を本格再建するものです。気仙沼市赤岩港水産加工団地に建設され、来年4月に着工し、2020年11月からの稼働を予定しています。設立時の従業員数は150名が見込まれます。協定式で同社の黒本聡社長は「生産能力不足が懸念されたため、新工場の建設を決断した。将来的に気仙沼を一大生産拠点にしたい」と述べました。



26日：米国レインテックの高校生が国際経済・観光局長を表敬訪問

日米の次世代リーダー育成を目指すTOMODACHIイニシアチブのプログラムの一環で多賀城市を訪問した米国シカゴ市にあるレインテック高校の学生6人が、高砂国際経済・観光局長を表敬訪問しました。



土木部のトピックス

6日：平成30年宮城県港湾復興大会 開催
宮城県港湾協会による「港湾復興大会」が開催されました。

9日：仙台塩釜港向洋地区 ふ頭再編改良事業 着工式

国土交通省及び県の主催による「仙台塩釜港向洋地区ふ頭再編改良事業着工式」を開催しました。仙台塩釜港（仙台港区）は、東北全体のコンテナ取扱量の約5割を担う東北地方経済を支える港湾です。本事業は、コンテナ貨物の取扱いが増加している高砂ふ頭の混雑解消と物流の効率化、更なる貨物の増加への対応を目的として事業採択されたものです。



12日：平成30年度土木部防災訓練を実施

今後起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の向上をはかるため、「みやぎ県民防災の日」に合わせて土木部防災訓練を実施しました。同時に土木部業務継続計画（BCP）の確認を行いました。



28日：塩竈市海岸通1番2番地区第一種市街地再開発事業施設建築物建設工事（1番地）地鎮祭・着工式

「塩竈市震災復興計画」において中心市街地の復興と再生の拠点に位置づけられている、1番地建設工事の地鎮祭・着工式が開催されました。式典には施行者である組合関係者をはじめ国、県、塩竈市、事業の関係者ら約70人が出席し、組合の鈴木理事長の挨拶のほか、土井復興庁副大臣や御来賓の方々からの御祝辞がありました。当事業により今後、住宅棟、事務所棟、店舗棟が整備され、塩竈市の玄関口にふさわしい復興のシンボルとなることが期待されます。



国・宮城県全体のトピックス

9日：「TOMODACHI イニシアチブ」米国代表団が
河端副知事を表敬訪問

日米の次世代リーダー育成を目指す「TOMODACHI イニシアチブ」プログラムの一環で宮城県を訪問した米国代表団10人が、河端副知事を表敬訪問しました。TOMODACHI イニシアチブは、東日本大震災後に発足した日米官民によるパートナーシップのことで、「教育」「文化交流」「リーダーシップ」といったプログラムを通して、日米の次世代リーダーの育成を目的に実施しているものです。

11日：ANA ホールディングス株式会社と
包括連携協定を締結

県とANAホールディングス株式会社は、地域社会の活性化に資することを目的とした包括連携協定を締結しました。協定では、観光振興、地域活性化、災害支援など全4項目について連携することとしており、インバウンドの拡大や国内観光客の誘客、県産品のPRなどについて協力して取り組みます。



12日：塩竈市津波防災センターオープン

マリゲート塩釜隣に塩竈市津波防災センターが開設されました。「東日本大震災」発災後の1週間に焦点をあて、そのとき何が起き、人々が何を求め、状況はどのように変化していったのかを、発生から7日間を中心に記録・展示しています。また津波発生の際は一時避難場所となり、市営汽船が欠航した時には待機場所になります。

18日：平成30年7月豪雨災害に係る派遣職員の
報告会

職員は7月10日から情報連絡員として、翌11日から公衆衛生活動チームとしてそれぞれ岡山県、広島県府中市、同東広島市に派遣されました。現地の被害状況や避難所の運営状況、今後見込まれる課題としてゴミの処理、仮設住宅の建設、熱中症や公衆衛生対策などについて報告しました。

土木部のトピックス

20日：気仙沼向洋高校改築工事 完了

旧宮城県気仙沼向洋高校は、東北地方太平洋沖地震及び地震に伴う津波により壊滅的な被害を受けたことから、学校全体を気仙沼市波路上瀬向から内陸の気仙沼市長磯牧に移転し復旧することになり、改築工事が進められていました。20日をもって、気仙沼向洋高校の改築工事が完了いたしました。



21日：定川災害復旧工事竣工式 開催

平成24年10月から東松島市及び石巻市において進めてきた定川災害復旧工事が完成したことから、竣工式を平成30年7月21日に開催しました。竣工式では、東松島市赤井小学校の「赤井いぶき太鼓」の演奏をはじめ、3.11

東日本大震災伝承板、竣工記念銘板の除幕、くす玉開披が行われました。

今回の工事完成により、定川を遡上する津波や豪雨による水害から周辺の市街地が守られ、地域住民の安全安心の確保が図られることが期待されます。



26日：(主) 女川牡鹿線 五部浦第二トンネル開通

今回、事業区間の一部である五部浦第二トンネルが完成したことから、開通式を開催しました。式には、女川町長、町議会議員をはじめ女川牡鹿線県道改良整備促進期成同盟会の方々など約40名を御来賓に招き、くす玉開披及びテープカットを行いました。式の最後には車列パレードを行い、トンネルによる事業効果を実感していただきました。



国・宮城県全体のトピックス

5日：ゆりあげ周遊船運航記念祭 開催

名取市では、日本の延長を誇る貞山運河を活かした新たな魅力創出に向けて、官民連携により「貞山運河舟運事業」の実施を検討してきました。この度、公募によって選定された民間事業者を運航主体に「ゆりあげ周遊船」として実施することとなり、閑上地区において『ゆりあげ周遊船運航記念祭』が開催されました。



3～5日：「平成30年宮城県ネクストリーダー養成塾」開催

宮城県庁や東北自治総合研修センターなどの会場で開催されました。東日本大震災後の宮城を支える次代のリーダーを養成することを目的に、さまざまな分野で活躍する方々の講話や、同世代の仲間たちとのグループワークなどを通して、将来の夢や目標について考えを深めるための機会を提供するもので、中学生52人が参加しました。



30日：宮城県内被災自治体の視察事業

被災地は、今なお多くの復興関連事業が進行中であり、引き続き人的支援が必要な状況です。被災地への職員派遣の必要性を理解いただくため、県は全国の自治体職員が被災地を視察する事業を展開しています。県庁1階ロビーで視察事業の出発式が行われ、全国55の自治体から85人が出席しました。



31日～：産直スタンプラリー 開催

県は、農産物直売所や農漁家レストラン、農漁家民宿を広くPRするため「みやぎ産直スマイルスタンプラリー」を8月31日から12月9日まで実施しました。

土木部のトピックス

1～3日：みやぎの復興まちづくりパネル展 in 東京都庁 開催

東京都庁第一本庁舎45階展望室においてパネル展を実施しました。都庁での開催は4回目となります。今回は、「被災市町復興まちづくり」のほか、「3.11伝承・減災プロジェクト（災害復旧の進捗等）」、「東京都が行っている東日本大震災に伴う支援」について展示いたしました。延べ6,000名近くに及ぶ国内外多くの観光客の皆様にもみやぎの復興の姿を知っていただくことができました。



7月24日～8月3日：2018夏休み！小学生と保護者の親子現場見学会 開催

普段近寄ることのできない工事現場の見学や体験コーナーで建設機械等に触れるなど「ものづくり」の楽しさを体感していただくことで、建設産業の魅力と役割について理解していただくため、小学生とその保護者を対象に「親子現場見学会」を開催しました。工事現場近隣の小学生とその保護者を対象に延べ8日間開催し、306名の方々にご参加いただきました。



10日：東北縦貫自動車道への（仮称）栗原ICの新設許可

県では、現在復興支援道路として整備を進めている「みやぎ県北高速幹線道路」から東北縦貫自動車道へ直接乗り入れできる、「（仮称）栗原インターチェンジ」の整備を計画しておりました。このたび、国土交通大臣から高速道路との接続について、許可されました。新たなインターチェンジの整備により、みやぎ県北高速幹線道路による沿岸部と内陸部の広域連携が一層強化されるとともに、県北地域や沿岸市町の産業活動や観光交流の更なる活性化が期待されます。



国・宮城県全体のトピックス

8日：石巻市かわまち交流センター（かわべい）
完成

観光や物産の情報
を提供するほか、誰
でも自由にくつろげ
るサロンスペース、
有料のミーティング
スペースなど、昨年
6月に開業した隣の商業施設「いしのまき元気い
ちば」と連携し、新たなにぎわいの創出拠点とし
て活用されます。



13日：平成30年北海道胆振東部地震の被災地に
派遣された職員が活動内容を報告

北海道胆振東部地震を受け被災地に派遣されて
いた職員3人が帰県し、河端副知事へ活動内容を
報告しました。9月6日から被害情報や被災地のニ
ーズを把握する目的で派遣された職員は、北海道
庁の災害対策本
部で国や道、各県
との連絡調整を
行ったほか、10
日からは北海道
むかわ町で避難
所運営等の助言
を行いました。



15～16日：ツール・ド・東北2018 開催

東日本大震災の復興支援および震災の記憶を未
来に残していくことを目的とした「ツール・ド・
東北2018」が開催されま
した。第6回を迎えた今
年は3,649人のライダー
が参加しました。



18日：客船「ダイヤモンド・プリンセス」初寄港

仙台塩釜港に寄港したクルーズ船としては、過
去最大規模となる大型クルーズ船（総トン数
115,875t、全長290.0m）が仙台塩釜港石巻港区に初
寄港し、約2,700人の乗船客の皆様にご挨拶を
いたしました。当
日は、歓迎イベントと
して大漁旗によるお出
迎え、鬼首神楽保存会
による演舞や地酒の鏡
割りなどが行われま
した。



土木部のトピックス

28日：熊本県議会による「裏沢川砂防堰堤」
（直轄砂防事業）の視察

熊本県議会（建設
常任委員会8名、土
木部長、関係課長等、
計16名）による「裏
沢川砂防堰堤」（栗原
市栗駒）の視察があ
りました。事務所長
から東日本大震災に
おける熊本県からのこれまでの多大なる支援に対
する謝意を伝え、「平成20年岩手・宮城内陸地震」
の概要や砂防施設の整備状況等を説明しました。



23日：第2回石巻市復興の森づくり植樹祭2018
開催

国営追悼・祈念施設
として国・県・石巻市
が連携して整備して
いる石巻南浜津波復
興祈念公園で、「第2
回石巻復興の森づく
り植樹祭2018」が開
催されました。植樹祭には地域住民や関係団体か
ら約400人が参加し、公園北側のかさ上げ工事が
終わった約3000平方メートルの敷地に、約40種3
千700本の苗木を、1本1本植栽しました。石巻南
浜津波復興祈念公園は2020年度に完成予定で
すが、同協議会は公園完成後も引き続き森づくり活
動を実施して行く予定です。



28日～10月9日：みやぎの復興まちづくり
パネル展 in 新潟ふるさと村 開催

新潟ふるさと村アピール館において、「みやぎの
復興まちづくりパネル展」を開催しました。今回
は、復興まちづくり推進室のパネル30枚、防災砂
防課の「3.11伝承・減災
プロジェクト」パネル14
枚に加え、新潟県応援派
遣職員の方が取り組ま
れた復興事業について
ご紹介するパネル5枚も
展示しました。



国・宮城県全体のトピックス

1日：女川町新庁舎開庁式 開催

東日本大震災の津波で全壊した宮城県女川町役場の新庁舎が完成し、開庁式が



開催されました。新庁舎は女川駅南側の安全な高台に立地し、海から0.5kmほどの場所にあった旧庁舎は3階天井まで津波が押し寄せたため、元の場所から約150m陸側で、標高約20mの高台に建設されました。役場機能は、ホールや図書室からなる生涯学習センター、保健センター、子育て支援センターが入居する複合施設で、利便性・機能性が高く、町民みなさんが快適に過ごすことのできる施設となっています。

11日：かわまちてらす閉上の起工式 開催

復興が進む名取市の閉上地区では、名取川沿いに新たな商業施設「かわまちてらす閉上」が建設されることとなり、起工式が開催されました。日本で初めての堤防上の建築物となり、地元の木材を活用した建物には27の物販や飲食店などが開店予定です。



13～14日：東北・みやぎ復興マラソン2018が開催

名取市、岩沼市、亘理町の3市町で開催された「東北・みやぎ復興マラソン2018」では、全国から1万2千人のランナーが参加し、復興が進む沿岸部のコースを駆け抜けました。



土木部のトピックス

10日：2018秋休み！小学生と保護者の親子現場見学会 開催

小学生とその保護者を対象に「親子現場見学会」を開催しました。小学生31名、保護者25名が参加しました。



23日：平成30年度 宮城県土木部優良専門工事業者表彰式 開催

宮城県土木部優良専門工事業者表彰式を開催しました。優良専門工事業者表彰は、元請企業と下請企業との間で対等な関係の構築を図ると共に、下請企業の専門技術の維持と更なる向上を図り、地域建設産業の担い手及び技術者の確保に資することを目的に、今年度から新たに表彰を行いました。



26～27日：全国運河サミットinみやぎ 開催

運河沿川10市町5利活用団体が協働し、「全国運河サミットinみやぎ」を開催しました。歴史家で作家の加来耕三氏の基調講演及び県内外の運河沿川自治体や有識者によるパネルディスカッションでの議論を踏まえ、全国運河サミットinみやぎ宣言において、未来に向けて運河を活かしたまちづくりの方策となる宣言を取り纏めることができました。



31日：平成30年度津波防災シンポジウム 開催

女川町生涯学習センターホールにおいて「津波防災シンポジウム伝承を継続するために～地域の強みを津波防災に生かす～」を開催しました。このシンポジウムは、平成18年度から津波防災意識の向上を目的として開催しており、今年で12回目の開催となります。



国・宮城県全体のトピックス

14日：広島県府中市長による表敬訪問

今年7月の西日本豪雨で大きな被害を受けた広島県府中市の小野申人市長が、職員派遣の謝意を伝えるため、佐野副知事を表敬訪問しました。小野市長は「震災直後に職員を派遣いただき大変心強かった。初動対応が円滑に進んだことで、復旧に向けたスタートを早めに切れた」と感謝の言葉を述べました。



18日：(国) 金ヶ瀬拡幅 開通

国土交通省が整備を進めてきた「一般国道4号金ヶ瀬拡幅」が、4車線で全線開通しました。当該区間は仙台都市圏と白石間での唯一の2車線区間のため、交通混雑等が課題となっておりました。この度の4車線化により、交通混雑の緩和や通行止め時の安定的な交通確保、救急搬送時の速達性・走行性向上、企業活動の効率化支援などの効果が期待されています。



19日：宮城つながる森業交流祭 開催

県は、森林（もり）づくりや森林（しんりん）の多面的機能、木材利用の意義、全国から支援いただいた海岸防災林の復旧状況などを県内外へ発信する「宮城つながる森業（もりぎょう）交流祭」を仙台国際センターで開催しました。昨年4月に「みやぎ森と緑の県民条例」が施行されたことを記念し、初めて開催したもので、県内外から約400人が参加しました。また、森林づくりに関する講演会やシンポジウムに加え、県内で森林づくり活動や木材利用拡大に向けた取り組みなどを行っている団体・企業によるパネルや木製品などの展示も行われ、大勢の来場者で賑わいました。



土木部のトピックス

1～15日：みやぎの復興まちづくりパネル展

in 宮城県図書館 開催

1日から15日にかけて、宮城県図書館において「みやぎの復興まちづくりパネル展」を開催しました。延べ約15,000名に及ぶ多くの来館者の皆様により、沿岸15市町の復興の姿を見ていただくことが出来ました。



17日：(国) 398号石巻バイパスⅡ期（大瓜工区）開通

一般国道398号石巻バイパスⅡ期（大瓜工区）約3.4kmについては、Ⅰ期（南境工区）に引き続き、平成21年度に事業着手し、事業用地の協力をいただき



ながら工事を進め、供用を開始しました。今回の供用により、石巻市街地の混雑区間を経由しない新たな東西交通軸が形成されるとともに、大規模災害時における避難路のリダンダンシーが確保されるなど、石巻圏域の広域連携の強化や地域の安心・安全の向上に資することが期待されます。

17日：仙台塩釜港松島港区 災害復旧工事竣工式 開催

仙台塩釜港松島港区は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、港湾施設や背後の胸壁等が被災する等、甚大な被害を受けました。宮城県では、これら被災した港湾施設の復旧のほか、胸壁等の海岸保全施設については今後数十年から百数十年に一度程度発生する比較的頻度の高い津波（レベル1津波）に対応した施設の復旧を進めてきました。本工事の完成により、津波等による浸水被害から背後にある観光地が守られ、地域の方々や来訪者の方々の安全安心の確保等が期待されます。



国・宮城県全体のトピックス

8日：名取市復興公営住宅 完成式典

名取市文化会館にて、名取市ですべての復興公営住宅が完成し記念の式典及び、鍵の引渡式が行なわれました。今回完成した公営住宅は、集合住宅3期（105戸）と戸建住宅3-2期（14戸）分で鍵の引渡が行われました。これで、閑上地区復興公営住宅463戸、下増田地区復興公営住宅92戸、高柳地区復興公営住宅100戸、3地区合計で655戸すべてが完成しました。



19日：新・名取市図書館 オープン

名取市図書館（宮城県）の新館がJR名取駅前の複合施設内にオープンしました。

26日：スマートモビリティ社会システム
実証プロジェクト推進に関する協定

県、女川町、南三陸町、トヨタ自動車株式会社の4者は、人口減少や高齢化が進む被災地で新たな交通手段として、電気自動車や自動車より小回りが利く超小型車両など「スマートモビリティ」を活用していく実証プロジェクトの推進に関する協定を締結しました。プロジェクトでは、地域内の移動手段や観光へのスマートモビリティの活用、先進技術を応用した輸送など今後4年間にわたり実験を行います。



土木部のトピックス

4日：外貿コンテナ定期航路（中国航路）新設

仙台塩釜港（仙台港区）と上海港など中国各港をダイレクトに結ぶ新たな航路が開設されました。この航路は、韓国の港湾に寄港することなく、仙台塩釜港と中国各港を直接結ぶ航路です。このため、中国各港との間の定時性が高まることや新たな寄港地（連雲港・太倉）と結ばれることなど、本県をはじめ東北各県に立地する企業による中国との輸出入の利便性が更に向上するものと期待されます。

25日：みやぎ県北高速幹線道路

Ⅱ期（中田工区）開通

みやぎ県北高速幹線道路は、東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道を結び、栗原圏域と登米圏域の交流を強化する全長約24kmの地域高規格道路です。既に開通済のⅠ期区間に加え、このたび、Ⅱ期区間中田工区（登米市迫町佐沼～登米市中田町宝江）が開通したことにより、沿岸部と内陸部を結ぶ広域道路ネットワークが形成され、登米市街地の交通渋滞の緩和や、地域産業の振興、観光交流の活性化、救急医療活動への支援が図られるとともに、宮城県の復興にも大いに寄与することが期待されます。



26日：気仙沼港海岸護岸災害復旧事業

（小々汐地区・梶ヶ浦地区）完成

気仙沼港海岸護岸災害復旧事業について、小々汐地区は平成27年10月に、梶ヶ浦地区は平成26年7月にそれぞれ護岸工事に着工し、このたび最後に残った陸間工事が完成しました。小々汐地区・梶ヶ浦地区とも東日本大震災により沈下した護岸の機能回復を図りました。



国・宮城県全体のトピックス

19日：日-EU ナノテクノロジービジネスマッチングの開催

富県宮城を加速するため、県は仙台市内でEU企業と県内企業とのナノテクノロジー分野におけるビジネスマッチング商談会を初開催しました。



8カ国19社のEU企業と県内企業14社が参加し、一日で61回の商談が行われました。商談会終了後も多くの企業が協議を継続しており、協業や立地などを通して販路拡大につながることを期待されます。

23日：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社との包括連携協定の締結

県とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、活力ある個性豊かな地域社会の発展と県民サービスの向上を目的とした包括連携協定を締結しました。この協定は、障害者スポーツの振興、交通安全イベントの実施、インバウンド対応などの9項目にわたり連携・協力して地域活性化に取り組むこととしています。



20日：第9回 復興加速化会議 開催

国交省や復興庁など国の機関と、宮城、岩手、福島、仙台の各自治体、建設業関連の7団体が、東北地方整備局で第9回復興加速化会議を開き、復興創生に向けた今後の取り組みを確認しました。石井啓一国交相は、間接費の割り増しを行う復興係数に関して、2019年度も継続導入することを表明しました。東北整備局の新たな取り組みとして、19年度から「ICT 土工活用証明書」や「週休2日実施証明書」の発行を同局だけでなく、東北6県や仙台市にまで拡大することや、東北6県と仙台市、業界団体が連携して「統一閉所日」を設定することなどを打ち出しました。



土木部のトピックス

16～18日：第3回みやぎ型管理運営方式
現地見学会 開催

宮城県では、将来にわたり持続可能な水道経営を確立するため、全国初となる上水道・工業用水道・流域下水道の3事業を一体で官民連携運営する



「宮城県上工下水一体官民連携運営事業(みやぎ型管理運営方式)」の導入に向けて取り組んでいます。16日から18日にかけて、工業用水道の「大槻浄水場(仙台市)」と流域下水道の「仙塩浄化センター(多賀城市)」, 「県南浄化センター(岩沼市)」の3か所で現地見学会を開催し、事業に関心の高い民間事業者延べ約250名に参加いただきました。今後、2021年度中の事業開始を目指し、取り組んでいます。

24日：片浜地区海岸災害復旧事業が完成

東日本大震災で被災した片浜地区海岸の災害復旧事業が完成しました。事業延長L=753.9m、復旧高さTP+7.2mの防潮堤となります。今後は完成した防潮堤の背面道路の工事を気仙沼市が行う予定となっています。



25日：都市計画法制定100周年記念フォーラム

開催

平成31年は、旧都市計画法が大正8年に公布されてから100年、また新都市計画法が昭和44年に施行されてから50年という大きな節目となっています。これを踏まえ、これまでの宮城県のまちづくりを振り返り、これからの都市計画制度の新たな役割を展望することにより、都市計画に対する理解と関心を深めることを目的として本フォーラムを開催しました。当日は約170名の方々にご参加いただきました。



国・宮城県全体のトピックス

1日：「平成30年度 宮城県住宅・社会資本再生・復興フォーラム」開催

県における住宅・社会資本の復旧・復興について報告するとともに、住まいに係る復旧・復興事業を振り返り、東日本大震災から得られた貴重な震災教訓を広く発信するとともに、将来に向けた課題や伝承すべきことなどについて考えていく機会とするため、本フォーラムを開催しました。



9日：やまもと夢いちごの郷がオープン

震災の津波で全壊した宮城県山元町の農水産物直売所が再建され、JR常磐線坂元駅前に、町の新たなランドマークとなる山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」がオープンしました。



16日：三陸沿岸道路 歌津本吉道路（歌津IC～小泉海岸IC）、本吉気仙沼道路（Ⅱ期）（本吉津谷IC～大谷海岸IC） 開通

国土交通省が復興のリーディングプロジェクトとして加速的に整備を進めている三陸沿岸道路の「歌津本吉道路（歌津IC～小泉海岸IC間）」及び「本吉気仙沼道路（Ⅱ期）（本吉津谷IC～大谷海岸IC間）」が、開通しました。この度の開通により、津波浸水区域を回避でき信頼性の高い高速ネットワークが形成されるとともに、救急搬送時の安定性・速達性の向上や、観光誘客の促進・広域観光の活性化、地域産業の更なる振興などが期待されています。



土木部のトピックス

6日：仙台港首都圏セミナー開催

宮城県・仙台市・仙台商工会議所など官民で組織する仙台国際貿易港整備利用促進協議会は東京都内において「仙台港首都圏セミナー」を開催し、荷主企業や物流業者、船会社など約460名に御参加いただきました。

第1部のセミナーでは、仙台塩釜港利用企業の弘進ゴム株式会社様、高麗海運ジャパン株式会社様から御講演いただき、また、県からは、様々な航路の就航状況やコンテナ貨物取扱量、港湾整備状況について説明しました。



6日：釜閘門カードの一般配布 開始

東部土木事務所では、平成30年10月27日に開催された「明治150年記念施策全国運河サミット in みやぎ」のスタディツアーで、イベントに参加された方への記念として配布した釜閘門カードを、運河沿線の復興状況をより多くの方々に知っていただくため、一般配布することとしました。



22日：大島架橋事業（一）大島浪板線 大浦工区・小々汐工区 開通

大島架橋事業において整備を進めてまいりました、大浦工区及び小々汐工区（大浦防災集団移転団地から小々汐防災集団移転団地を結ぶ約1.8km区間）が開通しました。これにより、（一）大島浪板線の円滑な交通確保が図られ、大浦地区及び小々汐地区へのアクセス向上が期待されます。



国・宮城県全体のトピックス

21日：三陸沿岸道路 唐桑高田道路
「唐桑小原木 IC～陸前高田長部 IC間」 開通

国土交通省が復興のリーディングプロジェクトとして加速的に整備を進めている三陸沿岸道路「唐桑高田道路」のうち、「唐桑小原木 IC～陸前高田長部 IC間」が開通しました。開通により、沿岸被災地の復興を力強く後押しするとともに、岩手県・宮城県をまたぐ地域産業の振興や県境を越えた広域的な観光振興の支援などが期待されます。



10日：石巻市 復興公営住宅整備事業完了式典

復興公営住宅整備事業で最後に完成した新西前沼第三復興住宅3号棟（あゆみ野三丁目）で、事業全体の完了式典が開かれ、復興の最優先に位置付けられた「住まいの再建」の目標達成を祝いました。新西前沼第三復興住宅3号棟は32戸を整備し、亀山市長から入居者の代表者に、鍵が手渡されました。震災後、市内に整備された復興公営住宅は4,456戸で、被災自治体で最大の数です。



11日：東日本大震災から8年（みやぎ鎮魂の日）

23日：仙台防災未来フォーラム
in 仙台国際センター 開催

東日本大震災の経験や教訓を未来の防災に繋ぐため、セッションやブース展示、体験型イベントなどを通じて市民のみなさまが防災を学び、日頃の活動を発信できる「仙台防災未来フォーラム」が開催されました。地域の防災まちづくり、「仙台防災枠組」の学習成果発表、女性や障害者の参画などの多様なテーマで、具体的な取り組み発表や議論が行われました。ステージショーや段ボールを活用した体験型プログラムなどの実施により、参加者からは「防災を身近に感じる事ができた」などの感想がありました。



土木部のトピックス

1～15日：みやぎの復興まちづくりパネル展
In 青葉通り 開催

青葉通地下道ギャラリーにおいて、「みやぎの復興まちづくりパネル展」開催しました。今回は本県のパネルに加え、福島県のご協力のもと、福島県の復興状況を伝えるパネルも併せて展示しました。

18日：小乗浜復興道路（仮）小乗浜橋 連結式
開催

小乗浜復興道路事業は、（主）女川牡鹿線と（一）牡鹿半島公園線を結ぶ復興道路事業であり、女川町中心市街地と小乗浜地区防集団地や津波により甚大な被害を受けた沿岸集落へのアクセス機能向上を図るものです。（仮）小乗浜橋は、小乗浜復興道路事業の一環として平成28年5月に下部工工事に着手し、平成30年2月より上部工工事を進めておりますが、この度、上部工床板コンクリートの最終打設を迎えたことから、連結式を開催しました。

21日：戸倉地区海岸災害復旧工事の完成報告会
開催

東日本大震災で甚大な被害を受けた戸倉地区海岸災害復旧工事が完成したことから、地元の方や事業にご協力いただいた方に対して完成報告会を開催しました。報告会は、戸倉公民館で工事概要等を説明した後、現場を見学しました。



